

単元構想

単元名【 音読劇をしよう 】

教材名【 お手紙 (アーノルド＝ローベル) 】(全12時間)

2年 細野 由美

⑤【単元目標】 場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることができる。

⑥【単元の言語活動】 登場人物の行動や会話を中心にして、声の出し方などを工夫した音読劇で伝える。

(相手：1年生 目的：様子を伝える 方法：音読劇 場面：音読劇発表会 評価：声の出し方や動きの工夫をして伝えることができたか)

④【教材の特徴】

- ・会話文が多く、会話の際の様子を考えることで、二人の心情と心の通い合いを読み取り、簡単な動作を付けた音読劇に取り組みやすい。

③【既習事項】

- ・『ふきのとう』では、想像を広げながら読み、語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読することを経験している。

②【児童の実態】

- 物語の展開や言葉遣いなどに変化があると読むことを楽しみ、意欲的に音読の工夫をする。
- △長い文の理解やみんなの前で話すことに抵抗を感じる児童がいる。

①【重点とする指導事項】

- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
- 【読むこと(1)ア】

⑦【言語活動成立の要件】

- ア 会話の際の2人の位置、距離、仕草、顔の向きを考え、人物の様子や気持ちを想像することができる。
- イ 音読の工夫は、声の出し方(声の大きさと読むときの速さなど)と動きに変化を付けることができる。
- ウ よりよい音読劇になるように、仲間に考えを話したり意見を参考にして練習したりすることができる。

⑧【単元の流れ】

<p>【第1次】2時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさや読むときの速さ、動きなどに変化を付けた音読劇「ぼうし」の範例を見て学習の見通しをもつ。 	<p>【第2次】5時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面ごとに、登場人物の様子を想像し、音読の仕方や動き方をワークシートに記入したことをもとに全体で話し合い、音読劇の3人チームで音読の仕方を練習する。 ・他のチームの児童に音読を聞いてもらい、評価を聞いてよりよい音読につなげる。 	<p>【第3次】5時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読劇の担当を決め、練習する。 ・音読劇を発表する。 ・仲間のよさを見つけて手紙を書く。 ・学習を振り返る。
---	--	---

並行読書・・・「がまくん」と「かえるくん」が出てくる作品を読み、登場人物の心の交流に親しむ。

⑨【単位時間の工夫】

<p>【第1次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読劇の相手、形態、工夫の仕方、練習の進め方などについて学習計画を立てる。 	<p>【第2次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展開 登場人物の様子を想像し、心情がよく表れている部分について、音読の仕方を全員で考える。音読劇のチームごとに音読練習をして、他のチームの評価を聞く。 ・まとめ 音読の仕方の工夫、仲間のよさみつけから振り返る。 	<p>【第3次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読の録画を見て、改善をする。 ・これまでの仲間のよさみつけをもとにチームの仲間に手紙を書く。
--	---	---

⑩【支える学習環境】

- ・本文の拡大をしたワークシートと、自己評価と仲間のよさが記入できるワークシート
- ・音読の仕方の工夫の例 ・音読の様子を振り返る映像 ・並行読書用図書の設定
- ・考えの足場となる教室掲示(学習計画表の掲示、学習の足跡の掲示)

(1) 願いを明確にした単元指導計画の工夫

- ・単元の言語活動である音読劇の範例を見せ、1年生への音読劇発表会を目標にすることに意欲を喚起する。

(2) 考えを深め、広げるための指導の工夫

- ・音読の工夫の仕方の例<「声の出し方(声の大きさ、読むときの速さ)」と「動き方」>を示して、ワークシートに記入する言葉を増やすようにする。
- ・音読の仕方について全体交流やチームごとに音読劇練習をする時、扱う本文を限定して焦点化を図る。
- ・音読劇で担当する役柄や他者評価を得る時は、第2次を通し交代で行うようにして各自の音読練習を充実させ、本文全体の読みを深める。

(3) 自己の高まりを自覚できるまとめ方の工夫

- ・音読劇の他者評価を合わせて自己評価ができるようにする。
- ・音読劇を録画して、自分の音読を振り返って改善につなげる。

◆本時のねらい

「でもね、…」 「きょうは、だれかが…くれるかもしれないよ。」 「ばからしいこと、いうなよ。」 「今まで、だれも、…今日だって…」 などの会話文などに着目して読み、友達を励ますかえるくんとあきらめきっているがまくんの様子を理解することを通して、声の出し方や動き方を工夫して音読することができる。

◆本時の展開 (5 / 12) < P 13 ~ P 14 L 2 >

	学習活動と児童の姿	指導上の留意点 (☆人権教育の視点)
つかむ	<p>1 前時を振り返り、本時の課題を確認する。</p> <p>課題 お手紙をまつことを話すふたりの様子が伝わるように、声の出し方や動き方を工夫しよう。</p>	<p>・本時は、P13 L1~P14 L2 について、全体で音読の仕方を考えたり、少人数で練習したりする。</p> <p>・本文を拡大したワークシートを用意し、行間に読み方と動きを記入する。</p>
考える	<p>2 □の部分について、音読の仕方や動き方を各自考えて記入し、全体で交流する。</p> <p>□ 「きょうは、だれかが…しれないよ。」 → ぼくが書いた手紙を、かたつむりくんがもうすぐ持ってきてくれるはずだから、信じてほしい。 ➡ 「今日は、だれかが」を大きい声で、がまくんを見て読む。</p> <p>□ 「ばからしいこと・・・。」 「今まで・・・だろうよ。」 → いやだと断っているのに何回も言われるから、怒っている。 ➡ かえるくんを見て、にらむように大きい声で、少し速く読む。 → 手紙なんて、もういいよ。ほっといてくれ。 ➡ 横を向いて少し小さい声で読む。</p> <p>□ (P. 14L1, 2) 「まだやってみません。」 → がまくんが手紙を待とうとしないから心配だ。早く手紙がこないかと気になってしかたがない。 ➡ 「まだ」を大きく読む。</p>	
深める	<p>3 深めの発問を聞いて考え、全体で交流する。</p> <p>かえるくんは、なぜ、「お手紙は、ぼくが書いたから、必ず来るよ。」と言わずに、「だれかが、…くれるかもしれないよ。」と言っているのだろう。</p> <p>・手紙が届くところを見て、誰からなのかわくわくさせてあげたい。 ➡ 少し大きな声でゆっくり、がまくんを見ながら、首をくっと下げて読む。</p> <p>4 3人ずつのチームになって音読の練習をする。</p> <p>5 グループで音読を聞き、良さや改善点を伝える。</p> <p>・3人チーム3つで、1グループを編成する。</p> <p>6 交流をもとに、3人ずつのチームで音読の練習をする。</p> <p>・グループ交流から何を工夫するかを明らかにして練習する。</p> <p>7 本時の学習の振り返りをし、次時の見通しをもつ。</p> <p>・声の出し方、動き、良さみつけの3観点から振り返る。</p>	<p>・掲示にて以下のような書き込み方の例を示す。 音読の工夫・・・声の大きさ、読むときの速さ 動き方・・・相手を見る・下(上、横…)を見る・手を振る 等</p> <p>・発表するチームとアドバイスのチームを分かるように掲示で示す。 ☆相手の音読を最後まで聞き、叙述に基づいて音読をしているよさや、アドバイスを伝えようとする態度を育てる。 (行動力)</p>
まとめる	<p>「ばからしいこと・・・。」 「今まで・・・だろうよ。」 ところで、いやだと断っているのに何回も言われるから、怒っていると思う。だから、かえるくんを見て、にらむように大きい声で、少し速く読むことができた。</p> <p>○○さんは、「まだやってみません。」のところで、「まだ」を大きい声でゆっくり読んでいたのがよかった。かえるくんが、がまくんを早く喜ばせてあげたいのに手紙がなかなか来ないから心配になっている様子が伝わった。</p>	<p>評価規準 【読む能力】 登場人物の行動から想像を広げ、登場人物の様子が伝わるように、声の出し方や動き方を工夫して音読している。 <ワークシート・音読></p>